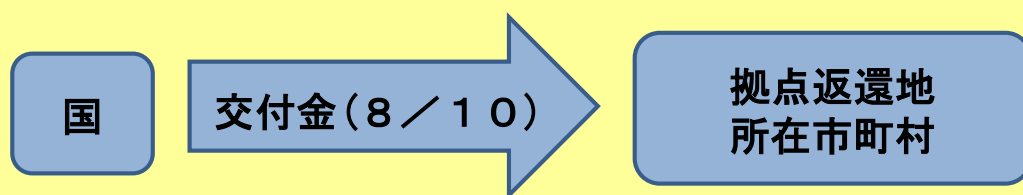


# 9. 拠点返還地跡地利用推進交付金(新規)について

予算額10億円

## 《制度の趣旨》

拠点返還地の跡地利用を推進するために、地元市町村（現時点では宜野湾市のみ）が実施する事業に対する支援。

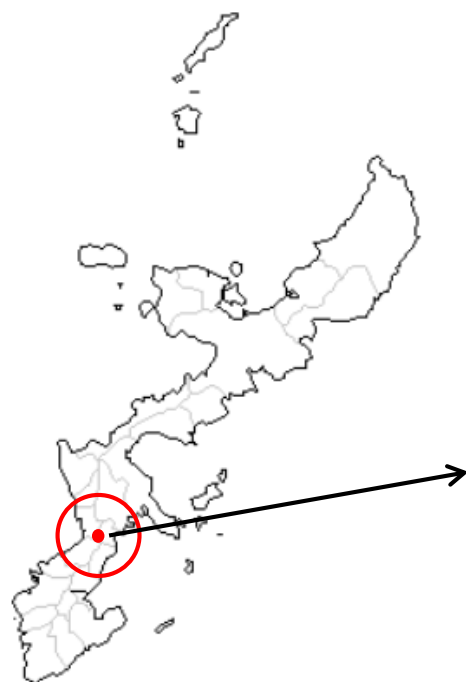


## 《今年度事業の概要》

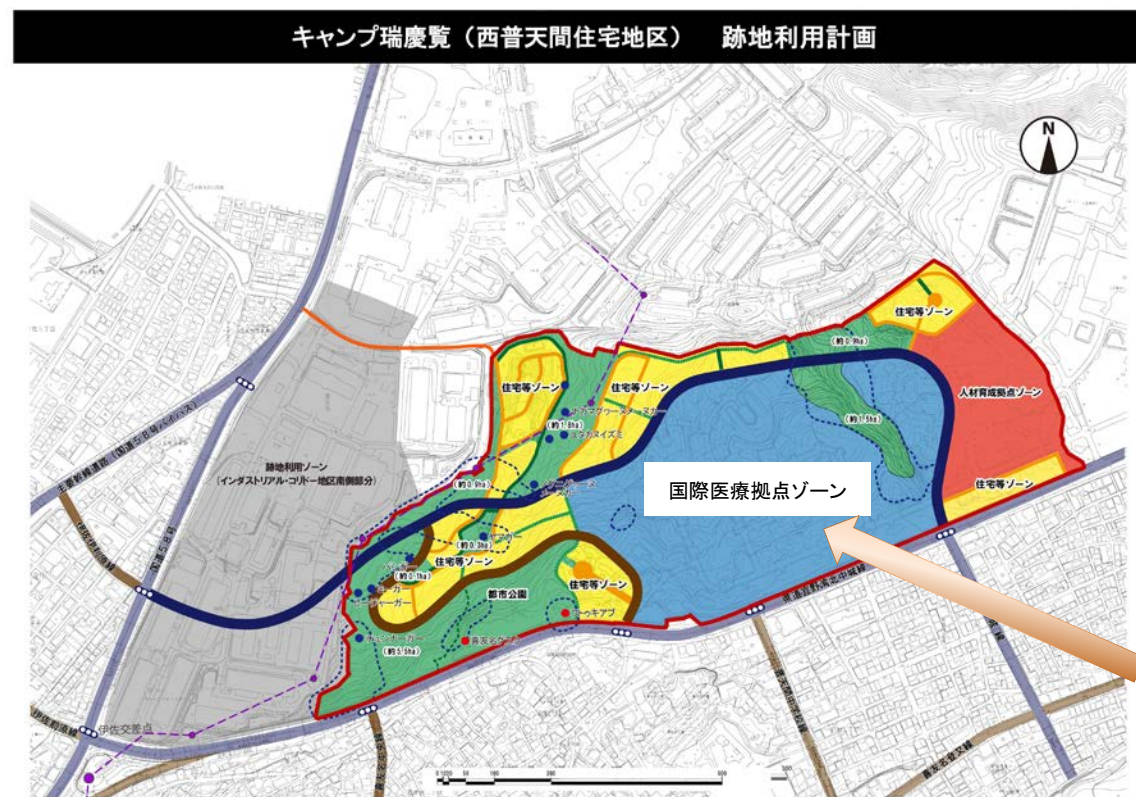
西普天間住宅地区跡地（平成27年3月末返還）における国際医療拠点構想をはじめとする跡地利用の取組を支援。

（事業例）跡地のグランドデザイン、環境アセスメント、埋蔵文化財調査など

→現在、3.2億円を交付決定。  
今後も宜野湾市の要望を受けて実施。



キャンプ瑞慶覧  
西普天間住宅地区  
(宜野湾市)



西普天間住宅地区の現状

琉球大学医学及び同附属病院が移設予定

# 10. 沖縄科学技術大学院大学(OIST)について

## 1. 目的

沖縄において世界最高水準の教育研究を行うことにより、①沖縄の振興と自立的発展、②世界の科学技術の発展に寄与することを目的とする(沖縄振興特別措置法(平成14年法律第14号)、沖縄科学技術大学院大学学園法(平成21年法律第76号))。

## 2. 特色

大学院大学の設置主体として特別な学校法人「沖縄科学技術大学院大学学園」を設立。  
沖縄振興の観点から国が特別な財政支援を行う(学園法)。

- ・学部の壁のない組織(単一の研究科・専攻)
- ・5年一貫制の博士課程のみ
- ・教育研究は英語で行い、学生・教員の半数以上は外国人となることを想定

(期待される沖縄振興への効果)

- ・科学技術の国際的な拠点の形成
- ・知的・産業クラスターの形成
- ・科学技術に関する人材の育成 等



## 3. 取組状況

○平成23年11月に大学院大学及び学園を設立。

(学園の理事等)

理事長/学長: ジョナサン・ドーファン(元スタンフォード大学線形加速器センター所長)

副理事長: ロバート・バックマン(元米国国立衛生研究所・神経疾患・脳卒中研究所副所長)

非常勤理事(14名): ノーベル賞受賞者等の科学者、沖縄振興や大学経営に係る有識者等 (H28. 4. 1時点)



キャンパス外観(平成27年3月)

○現在、教員51名(うち外国人33名)を含め、約40の国・地域から計425名(同228名)が研究に従事 (H28. 4. 1時点)

(神経科学、分子・細胞・発生生物学、数学・計算科学、環境・生態学及び物理学・化学の5分野を基礎とする先端的・学際的な研究)

○平成24年9月に開学。現在、第1～4期生を合わせて103名(うち外国人85名)の学生が在籍。

○教員は、採用時及び原則5年ごと、外部の評価委員会により世界的に高いレベルの基準で評価。

○平成22年3月に第1研究棟、平成24年6月に第2研究棟、平成27年6月に第3研究棟を供用開始。

